

社会資本整備審議会 道路分科会 北海道地方小委員会
(平成22年度第2回)

議事概要

1. 日 時 平成23年1月20日(木) 13時00分～15時30分

2. 場 所 札幌第1合同庁舎10階 共用1・2号会議室

3. 出席者

[委員長]

加賀屋 誠一 北海道大学大学院 教授

[委員]

越澤 明 北海道大学大学院 教授

平岡 祥孝 札幌大谷大学短期大学部 教授

古屋 温美 北海道大学大学院 特任准教授

山崎 幹根 北海道大学公共政策大学院 教授

4. 議 事

(1) 平成23年度予算に向けた道路事業(直轄事業)の新規事業採択時評価について

【委員からの主な意見】

- ・コストの他、整備期間も重要であり、整備効果の早期発現の視点も重要。
- ・車の流れによって地域が衰退する場合もあるため、現道拡幅や別線整備などの検討においては、地域の取り組みも考慮した上で、まちづくり計画などの地域計画における道路の役割を明確にすることが重要。
- ・道路を整備した際に、地域の方々がその道路を活用し、効果・効能を高めていくことが重要。
- ・全国一律の評価を行うのではなく、例えば、冬期の交通など、北海道の地域特性の視点も重要。
- ・今後、他の事業で、計画段階評価を、都市計画決定、環境影響評価や新規事業採択時評価よりも前に行う場合には、ルートを検討を行う際に、別線も複数案設定する等、フレキシブルな考え方で比較をすることが必要。

【結論】

- ・事務局より説明した一般国道337号道央圏連絡道路長沼南幌道路及び一般国道230号定山溪拡幅について、新規事業化は妥当である。

(2) 北海道横断自動車道（黒松内～余市）計画段階評価の試行について

【委員からの主な意見】

（政策目標の考え方について）

- ・ 地域における必要性に加え、日本全体で見た場合でも、国家軸として重要な区間であり、優先度が高いという整理が必要。
- ・ 黒松内～余市は重要な都市、港湾などを結んでいる広域環状道路であり、火山噴火時のリダンダンシーの確保という視点でも重要な区間。ミッションリンクとなっている当該区間を広域環状道路で結ぶ必要があるなど、誰にでもわかりやすい説明が必要。
- ・ 防衛問題や大規模災害への対応で、自衛隊の重機械の輸送など、日本全体の安全についても関連すると考える。
- ・ 物流におけるデータは、港湾等、他部門とも連携して整理を行うことを望む。
- ・ 農水産品の出荷側だけではなく、種苗や稚貝に関係する事業者等への効果も整理することが必要。
- ・ 速達性だけではなく、荷痛みの減少効果などの整理も必要。

（政策目標達成のための留意点について）

- ・ 政策目標の達成の留意点や対策案の立案については、道路の構造等技術的な観点のみではなく、後志地域の活性化や生活の利便性向上など多様な観点で検討することが必要。
- ・ 観光や物流などにおいて、地元が道路を活用しやすくするためには、インターチェンジ位置の検討が重要。
- ・ 観光等の人の流れについて、モデル的な観光ルートを作成するなど、当路線の効果等をシミュレーションすることも必要。
- ・ 物流の効果など、小さい効果でも丹念に積み重ね、本州にもメリットがあることを説明する必要がある。
- ・ 整備効果について、北海道から農水産品を供給する側の視点だけではなく、東京など消費者側の要請から整理することも必要。
- ・ 北海道総合開発計画（国際観光、一次産業の高付加価値化など）との整合性や計画の推進という視点も考慮する必要がある。

（対策案立案に対する基本的な考え方について）

- ・ 現道拡幅と別線で整備する場合の比較をしっかりと行うこと。
- ・ 北海道地域の自然条件や環境特性を活かした道路の整備を検討することが必要。
- ・ 対策案の立案に関しては、景観、観光を考慮した道路構造（例えばビュースポットのピクニックスペース的なもの）を試行する時期に来ており、北海道らしい新たな道路構造について検討することが望まれる。
- ・ 費用対効果だけではなく、北海道の地域特性を踏まえた考え方を評価のステージにのせるなど、評価自体に対する新しい提案も必要。

以 上